

原著

助産師が行う超音波検査に対する 妊婦のニーズと満足度 —産科医が行う超音波検査との比較—

北海道大学大学院保健科学院

仲谷 紗稀

医療法人社団カワカミウイメンズクリニック

伊藤 由美

北海道大学大学院保健科学研究院

佐川 正

抄 録

【目的】助産師が行う超音波検査に対する妊婦のニーズと満足度を明らかにする。

【方法】助産外来を開設している A 病院で妊婦健診を受診した妊婦 116 人を対象とし、質問紙調査を実施した。

【結果】助産外来群は産科外来群と比較して、超音波検査の印象では「楽しいものである」($p < 0.01$)、施行者に求めることでは「超音波画像を見ながらの会話」($p < 0.01$)、「胎児の様子をゆっくり見せて欲しい」($p < 0.05$)、「リラックスして超音波検査を受けられる環境づくり」($p < 0.05$)の得点が有意に高く、超音波検査の満足度(技術と対応)において有意に高かった($p < 0.01$)。

【考察】助産外来を選択した妊婦は、超音波検査は「楽しいものである」という意見が有意に多く、助産師との信頼関係の構築やリラックスできる環境づくりを含めたホリスティックケアを求めている。また、助産師が超音波検査に関する十分な教育を受けることで、妊婦にとって満足度の高い超音波検査を実施できることが明らかになった。わが国でも助産師のさらなる超音波検査教育を確立することで、より多くの助産師が質の高い超音波検査を実施することが可能になると考える。

キーワード：超音波検査、妊婦健診、助産師、満足度、ニーズ

I. 緒 言

近年、産科医の不足とともに院内助産システムの推進に向けた取り組みが全国的に行われるようになり、院内助産所および助産外来の開設数は年々増加してきている。それにより、助産師が超音波検査を含む妊婦健診を実施する機会も増加していくことが予測される。

日本では、半数以上の施設において超音波検査を妊婦健診時に毎回行っている¹⁾が、これは世界的にめずらしく、日本の妊婦健診の特徴の一つ

であるといえる。超音波検査を行うことは、妊婦の心理に肯定的な影響を及ぼすなどの効果が明らかにされている²⁾が、妊婦健診ごとに行うことの医学的意義は明らかでない³⁾。助産師が妊婦健診に超音波検査を用いる目的として、異常の早期発見ももちろん重要であるが、それ以上に母親(父親)に画像を通して胎児の成長を実感させること、胎児にとって望ましい環境と一緒に考えること、出産前からおなかの中の胎児を愛おしく思う気持ちを育てること⁴⁾が挙げられている。